

演技に正解はなく、あるのは「演技の本質」という1つのもの。  
そのことに気づくことができると、俳優としても指導者としても、  
求める演技へのアプローチはいくらだってあることがわかる。  
そしてアイデアで取り組まれている全てが、この「演技の本質」にしっかりと結びついていることもわかる。

今も俳優の多くは様々な問題を抱えていて、俳優自身の心と身体にある潜在的な〈何か〉が、  
俳優としての表現を妨げていることに気づかないままにいる。  
もし皆川先生に出会わなければ、僕にとっても演技は、  
今もただただ辛く苦しいものでしかなかったに違いない。

皆川先生のレッスンに飛び込んだ頃、20年ほど続けてきた僕の俳優としての活動は窮地に追い込まれていた  
今思うと精神的にもかなり萎縮した状態にあった。  
俳優として成長すると同時に、人として成長する必要もあったのだと思う。  
はじめの頃は劣等感も強く、皆川先生だけではなくメンバーにまで恐れを感じていた。  
当然レッスンに向かう足どりも重くなっていた。

それでもレッスンごとに、  
どういうわけか閉ざされていた心の扉が開かれてゆき...僕の個性が本来の自由を取り戻しはじめた。  
そこでようやくわかったのは、アイデアの空間には愛情が溢れていたことだった。

そして自由を得た僕の個性は、ある1つの“思い”を抱いていた。

「それは“ヒーロー衝動”だよ」

と、皆川先生がこの“思い”に名前を与えてくれたとき、  
僕の個性はアイデアで得た全てを俳優としてだけでなく指導者としても表現することを決めていた。  
僕の場合がそうただけなのかも知れないが...僕が「指導者になる」ことを表明した後も、  
皆川先生からは「これを指導しなさい」といったようなマニュアル的なものは何ひとつ与えられていない。  
つまり、ここで得たものはけっしてマニュアル化された指導法ではなかったということだ。

僕に与えられたのは「個性を活かしたうえでの、指導者としての在り方」ではなかったか。  
これに「演技の本質」を忘れさえしなければ...その時その俳優に効果的なアプローチがいくらでもできる  
ようになっている。これはもう、魔法のようにも思えてくる。

アイデアにおいては「俳優修行＝人間修行」と謳っていることから、その魔法は俳優にとって必ずしも平易なもの  
ではないかも知れない。そして時間を必要とするものかも知れない。  
けれど着実に「演技の本質」へ向かっていくことの出来る「魔法」といってもいい、  
強いエネルギーをアイデアの空間に感じずにはいられない。  
俳優としても指導者としても、本気で取り組む覚悟があるならば、  
この「アイデアの魔法」を信じてみるといい。

僕は現在、アイデアともフレンドシップ関係にある芸能プロダクション「関西タレント事務所」に所属し、  
俳優・タレントとしての活動を続けている。そして事務所に所属するタレントの指導や、大手タレント養成所  
カルチャースクールといった場でも演技講師としての役割を担うことができている。

個性による自由な表現を得て、僕は豊かになる。僕は個性による自由な表現をもって、家族を仲間を観客を  
豊かにできる。そして家族の個性による表現が仲間の個性による表現が観客の個性による表現が、  
さらにさらに広がって世界をどんどん豊かにしていく。これが僕の個性が思い続けていることの“全て”  
だからこそ僕は今も、アイデアという空間、メンバー、そして皆川先生に感謝している！